

主 題：キリスト者最大の敵**聖書箇所：エゼキエル書 28章12－18節、 イザヤ書 14章12－15節****序言：**

私たちは常に神の臨在を覚えるように、いつも神のことを覚えて歩むように、そのように心して信仰生活を歩んでいるのですが、つい、ともすれば、悪魔のことを忘れてしまう時があります。これは大変危険な状態で、悪魔こそ、私たちキリスト者最大の敵です。確かに、サタンは実在します。「敵を知り己を知る、百戦危うからず」ということばがあります。これが戦いの秘訣です。戦う前にまず敵のことをよく知る、そして、自分のことを知る、そうすれば戦いに負けることはないということです。私たちは案外、悪魔、サタンについて知らないことが多いです。ですから、今日はこの悪魔についてみことばを通してともどもに学び、彼こそ私たちクリスチャン、キリスト者の最大の敵であることを知って頂きたいと思います。幸い、先週は、成田兄を通して「キリスト者とは」というテーマで学びました。「己を知る」ことは一週間前にすでに私たちが十分知ったことです。「キリスト我がうちにありて生きるなり」とパウロは言いました。イエス・キリストが私たちのうちにあって生きておられる。そして、私たち救われた者は新しくされた。古い着物を脱ぎ捨てて、新しい着物を着る、キリストを着る、そのような者に変えられたということを教えられました。

I. 悪魔の起源

このような私たちに対して、私たちの最大の敵、これが悪魔ですが、悪魔はいったいどこから現われたのでしょうか？聖書を探してもなかなか見つけることはできません。私たちの記憶によれば、創世記に書かれている、神が人をお造りになった時に、蛇が人間に近づいて誘惑し罪を犯させる、そのとき初めて悪魔の存在を意識することができたのです。その後、ヨブ記を通して私たちは学びますが、いったい、悪魔はいつ造られたのか？どこにいるのか？ということは私たちにはよく分からないのです。だから、私たちは油断するのです。

1. 神以外のすべてのものは神によって造られた

コロサイ 1：16に「なぜなら、万物は御子によって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。」と書かれています。神の御手によって造られなかったものはない。だから、サタンも神によって造られたと考える時、私たちは「なぜ？」と思います。聖であり義である神が悪魔もお造りになった、そんなことは有り得ないのです。完全な聖さと正しさをお持ちになっている神ですから、悪魔の結晶であるサタンをお造りなるなどとは考えられません。では、いったいどこから悪魔は出て来たのか？と私たちは考えさせられるのです。聖書は言います。「神以外のすべてのものは神によって造られた」、だから、たとえ悪魔であっても神によって造られたに違いないのです。

2. 悪魔は霊的な存在（御使い）の一人であった

では、悪魔はどのようにして神によって造られたのか？私たちは考えなければなりません。彼は霊的な存在であり、天使の一人だと聖書は言います。ヘブル書 1：14「御使いはみな、仕える霊であって、救いの相続者となる人々に仕えるため遣わされたものではありませんか。」。神は、創世記によれば、すべてのものを造られて最後に人をお造りになりました。天使をどこで造ったのか？聖書にはそのことが書かれていません。しかし、どこかで神は霊的な存在である天使を造られたのです。

3. 悪魔は完全であった

そこでもまだ私たちのなごは解けません。また、彼は完全でした。創世記 1：31には、神が六日間かかって創造のわざを終えられた時に、「すべてのものはよかった」と記されています。「神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった。夕があり、朝があった。第六日。」、まだ、サタンはどこかな？と思います。彼も被造物の一つの存在であるということは、すべてのものが造られたということで私たちは理解できます。また、人間ではないから、霊的な存在であるということも理解できます。そして、神のお造りになったものはすべて良かったから、サタンも完全だったということのみことばによって学ぶことができます。エゼキエル書 28：12、15にはこのように書かれています。「12 人の子よ。ツロの王について哀歌を唱えて、彼に言え。神である主はこう仰せられる。あなたは全きものの典型であった。知恵に満ち、美の極みであった。…15 あなたの行いは、あなたが造られた日からあなたに不正が見いだされるまでは、完全だった。」。

4. 墮落の経緯

しかし、この完全なサタンがどうして悪魔、また、サタンと呼ばれるようになったのかということ、私たちはみことばを通して教えられなければなりません。エゼキエル書 28 : 12-18 と、イザヤ書 14 : 12-15 に、そのなぞを解くカギが記されていると考えられています。エゼキエル 28 : 12-18 「:12 人の子よ。ツロの王について哀歌を唱えて、彼に言え。神である主はこう仰せられる。あなたは全きものの典型であった。知恵に満ち、美の極みであった。:13 あなたは神の園、エデンにいて、あらゆる宝石があなたをおおっていた。赤めのう、トパーズ、ダイヤモンド、緑柱石、しまめのう、碧玉、サファイヤ、トルコ玉、エメラルド。あなたのタンバリンと笛とは金で作られ、これらはあなたが造られた日に整えられていた。:14 わたしはあなたを油そそがれた守護者ケルブとともに、神の聖なる山に置いた。あなたは火の石の間を歩いていた。…」、直接的にはツロの王について語られたことばですが、歴史的に、ツロの国にはこのような王は存在しなかったと考えられています。だから、人間のツロの王のことを言ったのではなく、エゼキエルはこのような表現をもって、霊的な悪の存在である天使についてこのように語ったと考えられています。神である主は言われました。「あなたは全きものの典型、完全なもののサンプルだ。また、知恵に満ちている、賢い、そして、「美の極み」こんなに美しいものはない。しかも、あなたは神の園エデンにいてあらゆる宝石があなたを覆っていた。着る物はすばらしい宝石で覆われていた。考えてみてもすばらしい存在です。人間でこんな人はいない、あり得ないことです。天使の中でもこのような存在は限られていると思われます。天使の長と言われるミカエル、また、彼に匹敵するほどの指導者的天使であったと思われる存在がここに記されているのです。

15 節から見ると、「:15 あなたの行いは、あなたが造られた日からあなたに不正が見いだされるまでは、完全だった。:16 あなたの商いが繁盛すると、あなたのうちに暴虐が満ち、あなたは罪を犯した。そこで、わたしはあなたを汚れたものとして神の山から追い出し、守護者ケルブが火の石の間からあなたを消えうせさせた。:17 あなたの心は自分の美しさに高ぶり、その輝きのために自分の知恵を腐らせた。そこで、わたしはあなたを地に投げ出し、王たちの前に見せものとした。:18 あなたは不正な商いで不義を重ね、あなたの聖所を汚した。わたしはあなたのうちから火を出し、あなたを焼き尽くした。こうして、すべての者が見ている前で、わたしはあなたを地上の灰とした。」、

全きものの典型であるだけでなく、その行ないは完全だった。但し、「あなたが造られた日からあなたに不正が見いだされるまでは、」とあります。このすばらしい天使に不正があったと言うのです。16 節には「…あなたは罪を犯した。」とあり、汚れたものとなったのです。彼は神の山に守護者ケルブとともに置かれたと書かれています。ケルブとはケルビムの単数形ですが、エデンの園でアダムとエバが罪を犯したときに園から追放されたその後、いのちの木の果実を取って食べないように置かれたケルビム、天使ですが、ともにいたと書かれています。

そして、その原因が記されています。17 節、自分ほど美しいものはないと考え、高ぶり高慢になったのです。そのために知恵を良いことに使わないで、悪いことに使ったので腐らせてしまったのです。神が当初考えられた通りに使わなかった。そこで神は「あなたを地に投げ出し、…すべての者が見ている前で、わたしはあなたを地上の灰とした。」と、エゼキエルはこのように記しています。

一方、イザヤは 14 : 12 で「**暁の子、明けの明星よ。**」という呼びかけをしています。これはルシファーと言い、明るさ、輝きという意味です。14 : 12-15 「:12 暁の子、明けの明星よ。どうしてあなたは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしてあなたは地に切り倒されたのか。:13 あなたは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山にすわろう。:14 密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』:15 しかし、あなたはよみに落とされ、穴の底に落とされる。」、すばらしく輝いている存在である「天使」と呼ばれたものが「どうしてあなたは天から落ちたのか。」とイザヤは語るのである。その原因が 13-14 節に記されています。悪魔が墮落した最大の原因です。彼、この暁の子、明けの明星は心の中で言います。「私は天に上ろう」と、神が、この天使を造った永遠の神がおられるその天に上ろう、それだけでなく、「私の王座を上げ」と、彼には王座などなかったのに、自分の王座を天に上げて、そして、「いと高き方のようになろう。」と言います。「いと高き方」とは神のことです。彼は神のようになろうと考えました。

1) 彼は神の園、エデンに置かれ（エゼキエル 28 : 13）、暁の子、明けの明星と呼ばれていた（イザヤ 14 : 12）

2) 不従順で（エゼキエル 28 : 16）…罪を犯した

3) 高慢（エゼキエル 28 : 17、イザヤ 14 : 13, 14）…いと高き方のようになろうと言った

彼は最高の環境、神の園エデンにいました。そして、多くの天使のリーダーであったのですが、残念ながら、神のようになろうとしたその思い上がりのために墮落して、天から落とされるのです。その際、

彼の味方である多くの悪の天使たちを連れて行ったと考えられます。悪霊とか、悪鬼と色々なことばで聖書には記されていますが、悪の存在は悪魔だけではないことを私たちは知ることができます。

II. 悪魔の働き

二番目に、その悪魔はどのようにして働いているのか？まず、神に対して働き、そして、人に対して働きます。神によって造られたのですが、いつか？とは聖書の中では分かりません。ただ、蛇が出て来て、エデンの園に置かれた人を誘惑したその時に悪魔は存在していました。創世記 1 : 3 1に「神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった。…」とあり、そこには天使たちはいたけれど、悪魔の墮落はまだなかったと考えられます。しかし、よく分からないというのが多くの説です。どこかで造られたのです。このようにして、私たちはまだ悪魔について多くのことを知ることができないのです。

1. 神に対して

でも、神に対して戦いを挑むと考えられています。神に反逆して、そして、天から落とされた彼は、満を持して神に対して戦いを挑むのです。マタイの福音書 4 : 1 - 11、そして、ルカの福音書 4 : 1 - 13 に書かれていることですが、マタイ 4 章をご覧ください。イエス・キリストが公生涯を始める前に四十日四十夜断食をされました。「:1 さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。:2 そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた。」、イエスは神の子です。多くの人たちは知りませんでした。悪魔はそのことをよく知っていました。神に対抗して神のようになろうとして失敗した悪魔は、次に、この地上に送られた神のひとり子に戦いを挑むのです。「:3 すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」:4 イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある。」、イエスはみことばをもってこのように答えられました。一番目の誘惑に失敗した悪魔は 5 節 ~ 「:5 すると、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の頂に立たせて、:6 言った。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる』と書いてありますから。」:7 イエスは言われた。「『あなたの神である主を試みてはならない』とも書いてある。」と、二番目の悪魔の誘惑も退けられました。二度ならず三度までも悪魔はイエスに挑むのです。8 節 ~ 「:8 今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、:9 言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」、イエスが神から遣わされた神の子であることを知っている悪魔は、イエスを自分にひれ伏せさせようとするのです。自分が神のようになろうと、そのことを実現しようとするのです。10 節「:10 イエスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ』と書いてある。」と、三度までも悪魔の誘惑に対して、イエスはみことばをもって答えられたということを私たちは教えられます。

1) イエスを試みた～と書いてある

申命記 8 : 3 「:3 それで主は、あなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナを食べさせられた。それは、人はパンだけで生きるのではない、人は【主】の口から出るすべてのもので生きる、ということ、あなたにわからせるためであった。」、6 : 16 「:16 あなたがたがマサで試みたように、あなたがたの神、【主】を試みてはならない。」、6 : 13 「:13 あなたの神、【主】を恐れなければならない。主に仕えなければならない。御名によって誓わなければならない。」、このみことばを用いて、このように書かれているから「引き下がれ、サタン。」と命じたのです。サタンはさすがごとイエスの前を去っていったと考えられます。

2. 人に対して

また、悪魔は神だけでなく人に対しても働きかけています。

1) アダムに対して、エバに対して

創世記 3 : 1 - 7 から私たちはそのことを見ました。サタンは蛇の姿を借りて、また、蛇を用いてまずエバを誘惑します。「:1 さて、神である【主】が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」:2 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。:3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と仰せになりました。」:4 そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。:5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知ること、神は知っているのです。」:6 そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えた

ので、夫も食べた。：7 このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの実をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。」、神は人をエデンの園に置かれて、園の中央にある二本の木、いのちの木と善悪の知識の木のうち、善悪の知識の木から実を取って食べてはならない。その実を取って食べたらあなたは必ず死ぬと言われました。ところがサタンはエバに言います。「神は本当にそんなことを言われたのですか？神は愛の方だから、あなたたちにとって食べてはならないものを置くはずがない。本当に言われたのですか？」と。エバの心にふと疑念を抱かせるような質問を放ったのです。それに対してエバはこのように答えます。「はい、神はそうに言われました。『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけませんから』」と。神はこのように言われなかったことは前回学んだ通りです。神が言われなかったことをあたかも神のことばであるごとく用いたところにサタンはつけ込む隙を見出したのです。サタンはここぞとばかりに言います。「決してそのようなことはありません。あなたがたは死にません。神がそのように言われたのは、あなたがたがこの木の実を取って食べたら神のようになるから、そのことを神は恐れて取って食べてはいけないと言われたのです。だから、大丈夫！」と。エバはそのことばに惑わされます。エバは最初に神から聞いていたことばを忘れてしまっただけで、思わずその木の実を見るのです。それはきれいな実で非常に美味しそうだった。そして、この木の実を食べたら神のように賢くなる、食べよう…と思って食べ、そして、側にいる夫にも与えたと、これが創世記に書かれている出来事です。このようにして、サタンは巧妙に、天においては失敗しましたが、造られた人に対しては成功し、そして、罪が全世界に入ったのです。

2) ユダに対して

ヨハネ 13：2、27を見るとこのように書かれています。「：2 夕食の間のことであった。悪魔はすでにシモンの子イスカリオテ・ユダの心に、イエスを売ろうとする思いを入れていたが、」「：27 彼がパン切れを受けると、そのとき、サタンが彼に入った。そこで、イエスは彼に言われた。「あなたがしようとしていることを、今すぐしなさい。」、悪魔がユダの心に思いを入れ、そして、サタン自身がユダに入ったのです。その結果、ユダはイエスを裏切って、パリサイ人や律法学者たち、イエスに敵対する者にイエスを渡してしまうという罪を犯してしまうのです。ですから、悪魔はこのように人の心に入ることができると私たちは知ります。明らかに、ユダの場合はサタンが人に入ったことを見ることができます。

3) アナニヤとサツピラに対して

使徒の働き 5：3に次のように記されています。「そこで、ペテロがこう言った。「アナニヤ。どうしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分のために残しておいたのか。」と。当時、クリスチャンたちは群れを作って教会を形成していくときでした。神を信じた当時のキリスト者たちはそれぞれの財産を持ち寄って、また、土地を売って、一堂に集まっても暮らしていました。だれ一人不自由を感じることなく分かち合っていました。ところが、このアナニヤとサツピラは自分たちの土地を売ってその代金を持ってくるのですが、持ってくる途中で、その一部を自分たちのために横に置いて「これが私たちの土地を売った代金の全部です」と言って差し出したのです。聖書には「彼らがサタンに心を奪われた」と書かれています。「心を奪われた」、詳訳聖書には「サタンがあなたの心を満たした」とあります。彼らは二人ともサタンに心を奪われ、聖霊を欺いたのです。二人とも即座に、息絶えて死にました。

4) ヨブに対して

また、サタンはヨブに現われます。ヨブ記 1 章をご覧ください。1：1「ウツの地にヨブという名の人

がいた。この人は潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっていた。」と、ヨブはすばらしいキリスト者でした。当時はキリスト者とは言いませんが、神に従う信仰の持ち主でした。ところが、6 節「ある日、神の子らが【主】の前に来て立ったとき、サタンも来てその中にいた。」、サタンは神に対して罪を犯したから、神のようになろうと傲慢な思いをもったから天から落とされた、追放されたものです。ところが、素知らぬふりでこのように天使たちに混じって神の前に立っていたと言うのです。だから、悪魔はこのようにして神の前に立って、このときはヨブを中傷するのです。9－11 節「：9 サタンは【主】に答えて言った。「ヨブはいたずらに神を恐れましょうか。：10 あなたは彼と、その家とそのすべての持ち物との回りに、垣を巡らしたではありませんか。あなたが彼の手のわざを祝福されたので、彼の家畜は地にふえ広がっています。：11 しかし、あなたの手を伸べ、彼のすべての持ち物を打ってください。彼はきっと、あなたに向かってのろくに違いありません。」と、サタンはこのような働きをする者です。その結果、いろんなことが起こりますが、最後には、ヨブは神への信仰を認められて、以前にも増してすばらしい環境に置かれたことを学びました。このようにサタンはいつも人間に対して働きかけているというのです。

3. 悪魔の呼び名

彼の名前を見ると、彼の働きがいかなるものであるかを私たちは知ることができます。

1) **悪魔** : ギリシャ語で Diabolos、英語では Devil ということばが使われています。告発する者、非難する者、批判する者、中傷する者という意味を持っています。

2) **サタン** : ヘブル語で Shatan、英語では Satan です。神に敵対する者としてその存在が表わされています。

どちらにしても彼は正しい存在ではありません。神に敵対する者です。

3) **この世の君** : ヨハネ 14 : 30 の口語訳では「わたしはもはや、あなたがたに、多くを語るまい。この世の君が来るからである。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない。」とあります。また、この世を支配する者と呼ばれています。ヨハネ 12 : 31 「今がこの世のさばきです。今、この世を支配する者は追い出されるのです。」 同じヨハネ 16 : 11 「さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。」、このように記されています。

4) **この世の神** : 「この世の君」とは「この世の王様」ということですが、王だけでなく神だと言います。Ⅱコリント 4 : 3, 4 に「:3 それでもなお私たちの福音におおいが掛かっているとしたら、それは、滅びる人々の場合に、おおいが掛かっているのです。:4 その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。」とあります。「不信者の思いをくらませて」、詳訳聖書では「心を盲目にして」と記されています。この世の人たち、神を信じていない人たちを盲目にする、心を見えなくする、おおいを掛けている、だから、普通の人たちは、もちろん、聖書によればすべての人は罪を犯した罪人ですが、なおかつ、サタンが働いて真の神を信じさせないようにしていると言います。「キリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしている」、これが彼のこの世の神としての働きです。人々が神という救いを求める対象を考えたときに、真の神に目を向けるのではなくて、自分たちで作り出した神を崇めようとするのです。多くの宗教と呼ばれる存在はそうにして人間が造り出したものです。神が備えられたものではありません。だから、彼はこの世の神として、そのような宗教を通して彼自身が崇められているのです。

5) **権威保持者** : a. 空中の権威を持つ支配者 エペソ 2 : 2 「そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。」 b. 暗やみの世界の支配者 エペソ 6 : 12 「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」 c. 死の力を持つ者 ヘブル 2 : 14 「そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、」、このように多くの力、権威をもつ者として、聖書はサタンのことを記しています。

悪魔はこのように恐るべき存在です。私たちが日頃注意しないで「神を信じていれば大丈夫！」と言うのではなく、悪魔はこのような働きを常に行なっているということを私たちは知らなければいけないのです。

Ⅲ. 悪魔に対抗するために敵を知ろう

1. 悪魔は神以上、人間以下ではない

Ⅱペテロ 2 : 11 にこのように書かれています。「それに比べると、御使いたちは、勢いにも力にもまさっているにもかかわらず、主の御前に彼らをそしって訴えることはしません。」と。悪魔は神が造られた被造物ですから、いかに美しく賢くて力があっても、神以上のものであるはずがないのです。神は全知全能です。悪魔が賢くても全知ではありません。どんなに力があっても全能ではありません。霊的な存在であっても遍在するものではありません。時間、空間を超越してどこにでもいるというのでもありません。神以下なのです。けれども、人間以上なのです。このことを考えなければいけません。ばかにはできないのです。私たちよりも賢いのです。力があるのです。これがサタンです。

2. 悪魔はキリスト者の敵である

だから、そのように力ある者が神だけでなく私たちに敵対するのです。だから、ペテロはⅠペテロ 5 : 8 でこのように言っています。「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。」と。「あなたがたの敵である悪魔」とペテロははっきりと言い切っています。彼は全世界を巡り歩いています。ヨブの時に良い天使に混じって神の前に立ちました。神がサタンに「おまえはどこから来たのか。」と仰せられたとき、「地を歩き巡り、そこを歩き回って来ました。」と答えています(ヨブ記 1 : 7)。全世界を巡り歩いて彼の獲物を狙って歩いて来たと言うのです。だから、私たちは決して油断することができません。

「ほえたける獅子のように」と、非常に恐ろしい存在です。

3. 悪魔は悪い者である

マタイ 13 : 19 「御国のことばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪って行きます。道ばたに蒔かれるとは、このような人のことです。」、また、Ⅰヨハネ 5 : 19 「私たちは神からの者であり、全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。」、全世界は悪い者、サタンの勢力の支配下にあると言っています。

4. 悪魔は試みる者である

先ほど見たマタイ 4 : 3 に「すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」とありました。だから、彼は「試みる者」と言われているのです。エバが誘惑されたときもやはり彼は試みる者でした。アダムは誘惑されませんでした。エバは試みられて誘惑されました。

a. 蛇 : 創世記 3 : 1 では「蛇」を見ました。「さて、神である【主】が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。」と。黙示録 12 : 9 には「こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。」と記されています。「蛇」というと皆さんはあの姿を見ただけで気持ち悪いと思われるでしょう？蛇はこの地上の生物の中で一番狡猾な存在でした。その姿については触れられていませんが、悪魔が美の極みであったように、悪魔がその働きを行なうときに蛇を選んだことは、蛇がただ賢いのみならず、美しい姿をしていたからだと思います。なぜなら、エバは蛇から声をかけられたとき少しも恐れを感じなかったからです。気安く応じ会話をするのです。そして、誘惑されていくのです。

b. 光の御使い : Ⅱコリント 11 : 14 には「しかし、驚くには及びません。サタンさえ光の御使いに変装するのです。」と書かれています。彼は～の振りをする、不信者の思いをくらませる、神以外のものを礼拝させる、すなわち、自分を礼拝させるのです。彼自身が美しい天使であったから変装しなくても美しいものであるはずですが、なおかつ、神の味方の天使であるかのように変装して私たちキリスト者をだますのです。また、神を信じない人たちを誘導して自分を礼拝させるように働くと言うのです。

c. 人殺しで悪い者、偽りの父

ヨハネ 8 : 44 に「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立つてはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。」とある通りです。

Ⅳ. 悪魔と戦う

私たちはこのような悪魔と戦わなければなりません。

1. 身を慎み。目を覚ましていて、信仰に強く立つ

Ⅰペテロ 5 : 8－9 に「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。:9 強く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。ご承知のように、世にあるあなたがたの兄弟である人々は同じ苦しみを通して来たのです。」とあります。先ほども見ましたが、「ほえたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っている」悪魔に対して、「信仰に強く立って抵抗せよ」とペテロは私たちに勧めるのです。無抵抗であってはいけない、騙されてはいけないと言います。詳訳聖書には「落ち着いて注意深くしていなさい」とあります。

2. 立ち向かう

また、ヤコブ 4 : 7 には「ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」と記されています。「立ち向かいなさい」、これは「反抗しなさい」という意味です。悪魔の罪の始まりは、神のようになろうとして神のことばを聞かなかったことです。エバもそうでした。神の命令に従わなかった不従順が原因です。だから、「神に従え！」とヤコブは教えます。そして、悪魔に立ち向かえと言うのです。

3. 神の武具を身に着ける

そのためには武具を身につけなければいけないとパウロは言います。エペソ 6 : 11、13－18 「:11 悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。」「:13 ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、強く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。:14 では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、:15 足には平和の福音の備えをはきなさい。:16 これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。

それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。：17 救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。：18 すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。」、悪魔は策略、計画を巡らして巧妙に立ち振る舞うものです。明らかに、これは悪魔の誘惑だと私たちに思わせないで「気が付いたら騙されていた」とそのような策略を立てるのです。だから、それに対抗して立ち向かうために神の武具で身を固めよと言うのです。「すべての」と「武具」という二つのことばが合体して「武具」ということばに使われています。ですから、神が私たちに下さるすべての武具で身を固めよと言うのです。いったい、どのような武具でしょう？

1) 腰に真理の帯

イエスはご自身を真理と言われました。ヨハネ 14：6「イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」、すなわち、私たちはイエスという真理の帯を腰に締めるのです。

2) 胸に正義の胸当て

イエスにあって私たちは義とされます。Ⅱコリント 5：21「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。」

3) 足に平和の福音

キリストが私たちの平和です。イザヤ 52：7「良い知らせを伝える者の足は山々の上において、なんと美しいことよ。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神が王となる」とシオンに言う者の足は。」

これらの三つの武具は、不定過去形で記されています。すなわち、過去に一度起こったことがその後繰り返されないのです。ですから、神の武具は、すでにキリスト者に与えられたものだと言うのです。真理の帯も正義の胸当ても、そして、平和の福音も私たちは持っているのみことばは教えるのです。足取りのしっかりした堅固な靴、それは「平和の福音」と言われるものです。

4) それらの上に信仰の大盾

ガラテヤ 2：20に「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」と「信仰」について記されています。「大盾」は全身を覆いつくすことの出来るものです。帯、胸当て、靴はその部分を守るものですが、信仰の大盾は全身を隠すことの出来るものです。二重の防具を持って守れと言うのです。

5) 頭に救いのかぶと

イエスというかぶとです。イエス以外に救いはないからです。使徒 4：12に「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。」、

イエスという真理の帯、イエスにあっての義の胸当て、イエスの御名による救いのかぶとをかぶる、これによって私たちは神によって守られているのです。

6) 御霊の与える剣

私たちは身を守るだけではありません。悪魔に対して攻撃をすることができるのです。それは「御霊の与える剣」です。神のみことばです。唯一攻撃的な武具です。ヘブル 4：12には「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」とあります。悪魔の誘惑を断ち切ることができるようなみことばの剣です。イエスが誘惑に会われたとき、みことばを用いて対抗されたので悪魔は退きました。

7) 御霊による祈り

そして、それらの武具に加えて祈ることが必要なのです。御霊による祈りが必要なのです。しかも、すべての聖徒のために祈る祈りです。自分のためだけでなく他の人々のためにも祈らなければならないのです。「忍耐の限りを尽くし、」とみことばは教えています。私たちは祈り続けているけれど、これは聞かれないのではないかと途中で頓挫することがあるかもしれませんが、私たちは忍耐しなければいけないのです。どんな困難があっても、また、周りの関係が損なわれたとしても、私たちは忍耐をもって祈ることが必要です。

このような武具を持って悪魔に対抗する、それが私たちキリスト者の責任です。

V. 悪魔の最後

気になる悪魔は最後にはどうなるのでしょうか？

1. 永遠にのろわれた者

原始福音を言われる創世記3章15節では、女の子孫によって悪魔がその頭を砕かれるということを私たちは見ました。創世記3：14－15「:14 神である【主】は蛇に仰せられた。「おまえが、こんな事をしたので、おまえは、あらゆる家畜、あらゆる野の獣よりものろわれる。おまえは、一生、腹ばいで歩き、ちりを食べなければならない。:15 わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」

2. 天での戦いに敗れ、居場所がなくなり、地上に投げ落とされる

黙示録12：8－9「:8 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。:9 こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。」、

3. 火と硫黄との池に投げ込まれ、永遠に苦しみを受ける

マタイ25：41「それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火に入れ。』」、黙示録20：10「そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。」、

4. 地獄に引き落とされ、さばかれる

Ⅱペテロ2：4「神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄に引き渡し、さばきの時まで暗やみの穴の中に閉じ込めてしまわれました。」

結論：

こうして学んで来たように、私たちキリスト者は悪魔の策略に対抗して神の武具を身に着ける必要があります。また、キリストを着る必要があるのです。先週学んだように、私たちは新しい者とされた、イエス・キリストを着た者でした。ローマ13：12－14「:12 夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。:13 遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。:14 主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。」、ガラテヤ3：27「バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。」

悪魔は常に私たちを狙っています。蛇のように狡猾で、ほえたけるししのように凶暴で、私たちの隙あらばと狙っているのです。私たちはこのようにして常に注意を怠ってはいけません。特に、悪魔はこの世の神ですから、人間が造った多くの宗教はこの悪魔礼拝ということになります。ところが、私たち神を信じる者でも間違ったことをしてしまいます。悪魔はそれを巧妙に狙っているということを知らなければならないのです。

例えば、救いに関して言うなら、バプテスマを受けなければ救われないという考え、私たちの教会ではイエス・キリストを信じた者が救われた証としてバプテスマを受けます。ところが、カトリックの場合はバプテスマを受けたら救われると言います。それは信仰ではありません。その後に堅信という儀式があるのですが、一つの儀式、儀礼によって救われるという教えです。また、聖餐式で、私たちはパンとぶどう酒を頂きますが、それは一つのしるしとして頂くのですが、カトリックの場合は、パンはイエス・キリストの生きた肉である、ぶどう酒は流された血そのものである、だから、それをいただくと教えられます。だから、頂くパンはイエス・キリストの肉そのものだから、その肉に礼拝をささげるのです。みことばによれば明らかにおかしいと私たちは考えます。もちろん、カトリックだけではなく、この聖餐式におけるパンとぶどう酒に関しては様々な考え方がありますが、私たちはあくまでもしるしとして行なっています。そのような誤った教えによって惑わされることもあるということです。

また、カトリックの場合、天使の像とかイエス・キリストの像、十字架に掛かったイエス・キリストの像、赤ちゃんを抱いたマリヤの像、使徒たちの像、それらを礼拝する、祈りをささげたり拝んだりすることがあります。これは明らかに違います。描かれた絵に対してもそうです。非常に厳しい教えのところでは、書かれた絵は決して置きません。偶像礼拝だからと。また、身に付けるものもそうです。ペンダントとして十字架をさげることもあります。時々、十字架をイヤリングとして付けているのをクリスチャン以外の方で見かけます。そのようものはいったい何なのか？十字架の意味を知っておられるのですか？と私たちは聞きたいと思います。

また、カトリックのように十字架を身に着けてお守りのように取り扱う、これも誤った考え方です。神社に行けばお守り札をくれます。家内安全、商売繁盛とそれを飾っていたら大丈夫と。その中身は小さな紙切れですが、それらをあたかも神の代わりをするという考えは、特に、未信の人たちを惑わすものとして用いられますから、私たちは注意しないといけないうのです。信仰を堅く守っていても、私たちはあのエバのようにひよっとしたら思い違いをして、悪魔の誘惑に負けることがあります。

だから、私たちは聖書を正しく学び、また、正しく覚えておかなければいけないということです。中途半端な記憶は悪魔の誘惑の起因となります。

最初に、成田兄が錦織選手のことを言いました。全米テニスの男子選手権で彼は日本人として初めて決勝戦に進みました。ベスト8が96年ぶりというすばらしい出来事でした。彼はその戦いに関して慎重にまた十分な備えをします。準々決勝ではラケットを10本準備して、ガットの張り替えを試合中に3回もしたと言います。張り方の強さによってボールの飛び方が違います。そのようにして慎重な備えをします。プロフェッショナルはそのようにして、用具でさえも非常に慎重に使います。私たちもみことばのプロフェッショナルですから、みことばを慎重に正しく使わなければいけません。錦織選手の勝利の要因、コートの白線を0.1センチ単位で計算して彼はボールを打つという、こんなことはできません。私たちは1メートルの範囲でもやっとなのです。彼はそのように精密にトレーニングして、基礎をしっかり立てて、そして、そのことを初めてできるようになるのです。

私たちも悪魔の策略に対抗するために、みことばをよく読み、よく学び、そして、正しく記憶して、イエス・キリストに似た者へと変えられていきたいと願う者です。